

## (7) 「未来創造会議」に向けた取組について (第3学年)

### <仮 説>

課題研究を、グループ主体にグローバルな視点から探究活動として深化させ、解決策等を提言することにより、問題を分析する論理的な思考力、企画力、対話力、表現力、プレゼンテーション能力が育成される。また、地域とのつながりを体感することにより、将来地域のリーダーとなって活躍しようとする意欲を持った人材育成を図ることができる。大学院に在籍する留学生を招いて意見交換を行う「未来創造会議」を生徒達が主体となって企画・運営・発表すること、また会議を通して新しい提言を発表することで、リーダーとしての自覚を養うことができ、社会とのつながりをもつ中でグローバルリーダーとしての資質を育成することができる。

### <目 的>

生徒自身が会議の企画・運営を行い、課題研究に発表と提案を実施する。発表と提案にあたっては、奈良先端科学技術大学院大学の留学生とも意見交換を行い、文化や言語が異なる人々との協働を通して発表と提案を行い、企画力や創造力、コミュニケーション力、協働力、プレゼンテーション能力、使命感などグローバルリーダーとして必要な資質を育成する。

### <内 容>

本年度は、新型コロナウイルス感染症の関係で、2月に実施した課題研究発表会以降、活動できない状況が続き、7月予定だった未来創造会議を従来の形では開催できなかった。また、生徒たちの研究自体そのものも十分ではなかった。ただ、今まで研究してきたことがこれで終わりということではないので、各グループでこれまで研究してきた内容について、現段階でのまとめをレポートで提出させ、指導助言者の先生方に見ていただき、紙面上で助言をいただいた。また、全員に対して、これまでの課題研究に関する取組の「振り返り」をさせ、活動を通じて、学んだことや身につけたこと等を言語化させ、活動の意義を、再度、確認させ、普段の授業や進路実現に役立てていけるようにした。

今回は、その中から、一つのテーマについて、事前の取組を中心に報告をしたい。

テーマ：ーオリジナル学習机「Bare Lige」の製作を通して家具のユニバーサルデザインと

奈良県の林業活性化を考えるー

#### ア 研究動機

幼少の頃より、インテリアや家具に興味があり、将来はインテリアの商品開発をしたいと考えていた。また、身近に体が不自由な親戚がいたこともあり、健常者だけではなく「すべての人」が使えるインテリアを開発したいと思っていた。材質に関して構想を練っていると、奈良県の林業の衰退を知り、奈良県産木材を利用して林業活性化を図れないかという思いをもった。そのような中で、奈良県産木材を使った一生使える学習机に関するプランを考えました。そこで、学生の学習机の利用率や所持率といった現状を調査し、すべての人が一生使いたいと思える学習机とはどのようなものかを分析していき、奈良県の林業の現状や奈良県産木材の特徴、家具製作の一連の過程を学ぶとともに、奈良県産木材で学習机を製作することが、奈良県の林業活性化につながるのかについて考察する。

なお、この研究の中心となるプラン名「Bare Lige」は、家具を大切にする国民が多い国、デンマークの言葉で、日本語で「ちょうど良い」という意味をあらわす。デンマークのように家具を大切にするという思いをもてる商品を地元である奈良県で作りたいと思いこの商品名にした。

#### イ 研究記録

##### (ア) 森庄銘木様訪問

菟田野町(奈良県宇陀市)で林業の仕事をしている森庄銘木様(以下敬称略)を訪問した。ビジネスプランをプレゼンし、林業関係者の立場から講評を頂いた。また奈良県の林業の現状や木材の特徴・魅力を学び、作業現場を見学させて頂いた。そこで、森庄銘木に「Bare Lige」製作

のバックアップして頂けることになった。製材を専門とされており、家具製作には携わっておられないので、木材組合を通して、桜井市にある家具製作の木工所の島家具様にアポイントメントを取って頂いた。



#### <森庄銘木様の感想>

- ・「Bare Lige」は手作り感があり、消費者の心をつかむものだ。
- ・モクコレ（木材使用物）の展示会があり、完成したら出展できるのではないかな。
- ・子供たちへの木育の一環となると思う。
- ・奈良県の木材を正しく有効活用できる。
- ・木の種類（素材）にこだわってほしい。  
(低価格帯と高価格帯の2つを計画しているが、できるだけ無垢材の銘木を使って高価格帯の一本でやってほしい。安い集成材だけを使って学習机を作ると奈良県のスギやヒノキでは無くても出来そうなイメージを与えてしまう。しかし、無垢材は魅力的だが、薄くすると反ってしまうというデメリットがある。だから反りにくくするために柁目を3枚繋げて学習机を作ることは良いと思う。)
- ・奈良の木ブランド課や出版社ともコラボ出来る。  
(奈良の木ブランド課に訪問することをお勧めする。)
- ・木材（同質素材）を使った小物のアイデアは良い。
- ・奈良の林業活性化や林業関係者の生活の質向上という社会問題の解決に貢献する考えは素晴らしい。
- ・ランドセルを製作している桜井市の鞆工房山本さんのように、市販ではなく年1回の展示会を行い販売する方法はどうか。(ネット注文で先に入金してもらおう事前予約システムを採用することで製作する数をはっきりしてロスが出ない。必要な分だけ発注・1つ1つ丁寧に手作り生産できる。ランドセルも「Bare Lige」も価格は高価だが、安いものを選んで購入するより魅力があることを伝え、差別化を図る。)
- ・勉強机以外にどのような家具が一生使ってもらえるのかについて生徒だけではなく先生や大人にアンケートを取ってみてはどうか。

#### (イ) 島家具訪問

森庄銘木のご紹介で、島家具を訪問した。島家具は主に北欧から輸入した材木を使い、オーダーメイドキッチンを取り扱う木工所である。また学習機の製作には、奈良県産ヒノキを使い、桜井市内の小学校に寄贈している。今回は、島家具の販売所だけでなく、加工場の見学をさせて頂いた。そして、訪問事前に考えた「Bare Lige」の改良案も踏まえ、構造に関してアドバイスを頂いた。



#### ウ 成果と課題とその改善策

研究の遂行にあたり、学習機の構造に関する課題に何度も直面した。その課題を解決するために、構想を練り検証を繰り返すことで、全ての人にとって使いやすい「Bare Lige」の商品化を将来的に実現する可能性をわずかながら見出すことができた。

その商品が実現し、実際に販売することで、多くの人に奈良県産木材の魅力を発信することができうる。そして、奈良県産木材に関心をもった「Bare Lige」の購入者が増加すれば、奈良県の林業や林業産業の生産活動が活発となるとともに、奈良県産木材の付加価値を、今以上に高めることが可能であろう。よって、「Bare Lige」製作・販売が奈良県の林業活性化につながる可能性があると考えられる。

#### エ 今後の展望

この「家具のユニバーサルデザインと奈良県の林業活性化」というテーマの研究をアドバンスコースに所属している一年間で完結させず、大学に進学しても継続しようと思っている。未来創造会議で高校生活の集大成として最後の発表が出来なかったことは残念に思うが、研究が途中で終わったことに関しては、大学で研究の続きを行うという目標を与えてくれたと思い、前向きに捉えている。

高校での研究は基本的な情報収集や林業関係者や家具職人等の専門家にお話を聞き、研究内容をプレゼンテーションする準備段階で終わってしまった。私が大学に進学したら、学習機製作に関わる設計・構造等の専門知識を学び、「誰もが一生使える使いやすい家具」の研究をするとともに、再度森庄銘木や島家具に「Bare Lige」製作の協力を依頼し、ビジネスプランを実現させたい。

実現にあたり、専門的な知識を深め「Bare Lige」の製作をするとともに、奈良県庁の「奈良の木ブランド課」に訪問し、担当者様の話を知りたい。サンプル配布等で奈良県産木材をアピールし、奈良県産木材使用「Bare Lige」の付加価値を高める。最終的に、展示や一般販売だけではなく、ふるさと納税の返礼品としても活用する。このことで、奈良県の林業活性化に貢献することが出来るのかを検証し、この研究を続けていきたい。そして、奈良の木の魅力を発信する人材でありたい。「林業に無縁な家庭で育った奈良県の高校生」の私が奈良の木を使って家具を開発することで、林業と違った視点から奈良県産木材をアピールが出来るということ、自分の強みにしていきたいと思う。

#### <終わりに>

本年度の課題研究は、現地へのフィールドワークなどを実施した班も増えたものの、時間的な制約の中で、一部は書籍調査やインターネット調査で終わってしまったものがあった。ただ、早い時期から研究内容を決定している班は、積極的な取組を行うことができたことは評価できる。新型コロナウイルス感染症のために活動が制限されたことは残念であったが、ここだけの活動だけでなく、すべての学校活動の中で、学習してきたことを活かしてもらいたい。